動物分類学報 1980Vol.5 No.3

中国におけるコクマルガラスの研究

陳服官[1]・羅時有[2]・関芝蘭[1]
1 西北大学生物系・2 陝西動物研究所
訳　福井和二

中国におけるコクマルガラスは1種なのか2種なのか，この論争は百年を超え今日に至るも久しく続いている．古くはSchlegel(1859)が黒色型コクマルガラスを *Corvus neglectus* とし，Sharpe(1877)，David と Oustalet(1877) および Kolthoff(1932) 等の学者が共に Schlegel の意見に同意して，黒色型コクマルガラスは独立した1種と認められ，黒白型は *Corvus dauuricus* とされた．しかし，Swinhhoe(1871：383) の著作中で，*C. neglectus* と命名した Schlegel が後になって，最初に提出した *C. neglectus* は *C. dauuricus* の幼鳥であると訂正していると，語っている．Stresmann(1920)，Hartert(1922)，Kozlova(1933)，Kleinschmidt(1935) 等はみな，*C. neglectus* は *C. dauuricus* の幼鳥，あるいは黒色型の1種であると認めている．我が国の寿振黄(1939) は飼育研究の後，黒色型は白黒型の幼鳥で，1回目，秋の換羽から2年秋の換羽に至る間の羽色である．ただ，雛の羽色についてはよくわからないとしている．新疆西部と国内広範囲に分布するコクマルガラスが1種であるか2種であるかの論争は今日までも続いている．鄭作新(1958，1976)，銭燕文等(1973)，鄭作新等(1973) はすべて中国のコクマルガラスは1種で，*C. monedula* としている．Vaurie(1959)，Blake と Vaurie(1962)，Goodwin(1976) などは中国のコクマルガラスは2種で，新疆西部に分布する *C. monedula*，その他，国内の広い範囲に分布するものを *C. dauuricus* としている．この問題をわれわれは数年来研究しており，その結果を報告する．

1．種の問題

我が国の学者寿振黄 (1939) はコクマルガラス *C. dauuricus* について研究し，生後当歳の幼鳥は黒色型であると指摘しており (Schlegel は *C. negleeyus* と決めている)，成長は白黒型であるとしている．Дементьев (1954) は *C. dauuricus* は *C. monedula* の亜種であるとした．鄭作新 (1958，1973，1976) は我が国のコクマルガラスは *C. monedula* 1種であるとし，*C. dauuricus* は亜種であり，*C. m dauuricus* とした．鄭宝賚 (1965) もまた我が国のコクマルガラスには2つの亜種があり，*C. m. monedula* と *C. m. dauuricus* とし，新疆北部のコクマルガラスはこの両亜種の混交型だとした．その根拠として，新疆烏魯木斉(ウルムチ)で6月に採取された4個体の黒色型幼鳥中2個体の標本の初列風切第2羽が第5羽より短く，他の個体の標本は初列風切第2羽が第5羽より長かった．青河県で採取された2個体 (6月末と9月初め) では，初列風切第2羽は第5羽より長く，吐魯番(トルファン)において6月1日採取された3個体中，1個体は初列風切第2羽は第5羽より長い (他の2個体は翼の損傷が激しく比較することができなかった) ことをあげ，これらによって，新疆北部のコクマルガラスは *C. m. monedula* と *C. m. dauuricus* との混交型であるとしている．コクマルガラスの翼に関しては，Vaurie(1959) が *C. monedula* の翼羽の形状について，初列風切2＞5あるいは2＝5で，*C. dauuricus* は初列風切2＜5であると指摘している．しかし，われわれが新疆，青海，陝西，四川，雲南，貴州，チベット等で232個体を採取し，観察したところ (表1，表2)，*C. monedula* 成鳥の初列風切羽の形式は2＞5と2＝5もあり，また2＜5のものもあったが，2＜5が多数を占めた．しかし，北京，雲南，陝西で採取された標本には2＝5と2＞5のものが見られた．

表1 *Corvus monedula* の翼羽の形式と頚および頚側の白斑

採集場所	採集時期	標本数		性別	翼羽型式			頚部の白色斑
					2>5	2=5	2<5	
新疆霍城県伊寧県，尼勒克県，巩留県，新源県，青河県	1963年6～7月 1975年6～10月	成鳥	15	8♂♂	4	2	2	頚部の白色斑顕著或いは頚部の白色斑明瞭
				6♀♀	3	1	2	
				1♀			1	
		幼鳥	7	3♂♂			3	頚後部と頚側の白斑不明瞭
				3♂♂			3	
				1♀			1	

表2 *Corvus dauuricus* の翼羽形式

地区		青海	陝西	四川	雲南	貴州	チベット
標本数		44	114	24	13	13	2
翼羽型式	2＜5	44	109	24	11	13	2
	2＝5		5		5		
注		1993年11月 北京採集の05897号標本による翼羽型式は2>5					

われわれの観察によると中国におけるコクマルガラスは独立して２つの種，すなわち *C. monedula* と *C. dauuricus* が分布しているものと認められる．彼らの主要な特徴は不連続的である．*C. monedula* は頚が銀灰色，頚側に白色斑，腹部は全体に黒色，虹膜は銀白色あるいは灰白色．雛と巣立ちしたばかりの幼鳥の体色は全身黒色である．しかし，*C. dauuricus* は頚と腹部が灰白色で，虹膜は暗褐色，雛と巣立ち直後の幼鳥は黒白型の成鳥と同色で，当年の換羽から２年目の秋の換羽前は黒色である．両種の形態ははっきりと異なっており，かつ両者は新疆烏魯木斉一帯に棲息し，両種間の類似個体も見ることができ，風切羽に次の特性を示す．*C. monedula* は２＞５と２＝５で２＜５の物も見受るが，*C. dauricus* は大多数が２＜５で２＝５と２＞５も見られる．鄭宝賚(1965)によるところの標本は幼鳥が多いが，しかし，われわれが新疆で採取した幼鳥で見るところでは，*C. monedula* 幼鳥の風切羽の型式は２＜５であった．従って，鄭宝賚が黒色型幼鳥の風切羽型式をもって主要な種間の根拠としているのは，新疆烏魯木斉一帯は両種の分布が重なっており，*C. monedula* と *C. dsuuricus* を同一種と認めることには，われわれは同意できない．

２．亜種問題

新疆西部に分布するコクマルガラス *C. monedula* は亜種なのであろうか？鄭作新(1976)は，基準亜種 *C. m. monedula* としている．Vaurie(1954，1959)，Goodwin(1976)，Blake と Vaurie(1962)等の文献資料を調べたところ，基準亜種の分布は北欧のスカンジナビア半島，北緯64°以南のスエーデン，デンマーク，フィンランドで，冬季はフランス，イギリスなどで越冬する．*C. m. spermologus* は西ヨーロッパとモロッコに分布し，*C. m. soemmerringii* は前種の分布域の東，イラン，アフガン，トルキスタン，蒙古等に分布．*C. m. cirtensis* はアルジェリアに分布する．亜種間の形態的識別は，*C. m. soemmerringii* の頚は灰色，両頚側は明らかな白色斑．*C. m. monedula* は頚の灰色が前種より暗色であり，頚側の白色斑が明瞭でなく，あるいは缺失している．*C. m. spermologus* は頚側の白色斑がない．*C. m. cirtensis* は頚の白色と黒色部分の区別が明確ではない．Дементьев等(1954)の≪ソ連鳥類誌≫中に“実際に亜種

として存在するのは *C. m. monedula*, *C. m. cirensis*, *C. m. spermologus* 等のみが認められる"とし，*C. m. semmerringii* は存在しないとしている．しかし，その根拠は一字も提示していない．Blake と Vsurie(1962), Goodwin(1976) 等は新疆西部に分布するコクマルガラスは亜種 *C. m. soemmerringii* であるとし，Bates(1952) も新疆近隣地区のコクマルガラスは亜種 *C. m. soemmerringii* としている．われわれの観察るによれば新疆における標本の形態的特徴は *C. m. soemmerringii* の特徴と符合するものであった．したがって，亜種は異なる環境に適応して生じた地域的な変異であるとの≪ソ連鳥類誌≫によって認められなかった亜種 *C. m. soemmerringii* は存在すると認める．Vaurie(1959) は *C. m. soemmerringii* と *C. m. spermologus* についてその書に，特徴を明確に列挙している．われわれは新疆の標本を見ることによって，おおかたの成鳥は後頚部は灰色と頚側部の白色斑が顕著で，幼鳥では後頚部の灰色が暗色で頚側部の白斑が顕著でない．しかし，10月の換羽後の標本では，頚周囲の特徴が顕著に現れる．これによってわれわれは新疆西部に分布する *C. monedula* の亜種は *C. m. soemmerringii* であり，*C. m. monedula* ではないと認める．